

令和2年度 北海道羽幌高等学校 学校関係者評価

2月25日(木)実施

A: 十分である＝4点 B: 概ね十分である＝3点 C: 不十分である＝2点 D: 改善を要する＝1点

領域		評価の観点		達成状況		取組の適切さ	改善に向けた取組	自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ	ご意見
学校運営	組織運営	1	本校の学校教育目標や教育実践は、生徒の実態や保護者・地域住民の願いを踏まえたものとなっている。	3.37	3.47		・保護者の意見や、地域のアンケート、議会の話しに対して積極的に耳を傾けたい。 2. 今年度は制限がゆかりやむを得ない。 3. 改善の意識は高まっているが全体的にまだ低いと思われる。 ・科目(選択)の設定が現在の生徒の実情に合っていない。また選択しづらいものがある。 ・余白を残した方がスムーズにできる部分とそうでない部分をしっかりと見極めて、行動していきたい。 ・自分の立場や他の先生の意図などを考え、自分の仕事をしっかりと取り組んでいきたい。 ・今年度の反省、引継ぎを適切な方法で行う。 ・教育資源について主に分掌内での活用を考えたい。	3.63	3.83	・環境学習に校外資源を活用している。 ・評議員会に出席させていただき、高校の取組などはなんとなく分かりますが、現実には先生や生徒の姿を見ることができず、申し訳ありませんが、評価の記入は難しいものがあります。コロナなどの影響で難しい面はあると思われますが、地域の高校に甘んじるのではなく、一人でも多くの学生が学びや部活動等で「羽幌高校に進みたい」という発信があれば、さらに良い方向に進むものと思います。
		2	育成を目指す資質・能力を踏まえ、学校内外の教育資源を活用した教育活動が実践されている。	3.37	3.47		・業務の精選は進んでいるが、教員間の業務バランスはいまだに大きな差があるので、分掌内での見通しが必要。 ・コロナ禍のこともあるが、教科の研修等により積極的に参加し、授業の質を上げる。 6. 引継ぎ書は自分だけでなく、後任の方にも非常に重要で、まわりの方々も作り始めていることが多くなっていると思います。 ・同僚感を高め、働きやすい職場づくりに努める。労を惜しまない。 4. 教職員の質の向上が必要。 6. 少しずつ業務の効率化を進めている。 ・一部の教員への業務の偏りがあるかと思います。「精選」が叫ばれていますが、精選できるものはほほいなのでは…。 ・研修がほとんど行われず小論文、class等の研修はあったが実りあるものとはなっていない。全教員での指導に至っていない。 6. 減らせる業務があまりないで時間だけ管理することがそもそも間違っている。その上で、改善を考えられるところとしては、保護者に理解してもらうことがある。 ・業務の精選にも限界があり勤務時間のこれ以上の削減は困難と思われる。教職員の定数増を望む。 ・効率的な業務の割り振りを考えたい。 ・PC環境の改善に取り組む。	3.68	3.93	
		3	前年度の学校評価や反省事項に基づいて、教育活動の改善を適切に行っている。	3.26	3.37			3.33	3.43	
	教職員の資質向上	4	信頼される学校づくりに向けて、交通法規等の法令遵守や体罰防止など服務規律の保持及び危機管理に努めている。	3.68	3.63			3.68	3.90	・働き方改革が進んでいると思う。特にクラブ活動指導。
		5	研修を積極的に推進し、実践的指導力の向上に励み、資質向上に努めている。	3.26	3.26			3.33	3.43	
		6	効率的な業務の精選・遂行とそのスケジュール管理に努めるなどして、「働き方改革」を進めている。	3.00	3.16			3.40	3.57	
	総務・教務	7	学習シラバスを活用した授業展開や観点別評価により学習評価を適切に行い、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を図っている。	3.16	3.32		・教科横断的に思考力、判断力、表現力などの活用学力を育んだり、深い学びの観点からの授業改善は十分に時間をかけて行うことができていない。(時間の確保) ・コロナ禍で外部への発信が弱くなる今だからこそ、HPや配信メールを更に有効に活用する。(授業の様子などもHPでもっと配信できたら) 7. 英語科は教科のシラバスを作成しているものの、他校が公開しているようなCAN-DOリストがない。今までの英語科教員の技量に頼りきりの教科であるため、指導要領や北海道CAN-DOリスト、羽高の学校目標等、生徒の実態を考慮しながら、羽高独自のCAN-DOリストを作成する必要がある。(H28に途中まで作った形跡がある) 8. 今年度の1学年は特に英語は嫌いだが、社会(日本史や地理)はまだ抵抗が少いことが現れているため、英語で様々な科目にも触れながら教えることが必要と痛感した。 11. 今後は昨年度より快方に向かうことを願います。 ・コロナの影響もあり、地域家庭の連携も希薄な状況であった。終息次第改善されるだろう。 ・来年度も「コロナ禍」は続くため、それを見越した学習や行事の計画に努めたい。 7. 令和4年度に向けて更なる対策が必要。 9. 全体での働きかけが必要。 10. 町へのさらなる理解が必要。 11. 12. 今年度はなかなか難しい。 ・観点別評価に関しては学校全体として研修等を一度行った方がよいと思います。 ・試行や判断、表現を重視して授業改善を行う教員側とすぐに答えを求めたり、思考しようしない生徒側の溝がなかなか埋めることが難しい。高校だけではなく、小・中学校との合同教員研修が必要だと思います。 ・教科横断的な内容がほとんど行われていない。教科書、ノート主体の授業も多く、ICTを取り入れた内容も少ない。 8. 学校行事や学年のつながりを考えて計画する。最終目標を共有する。 11. 新型コロナウイルス感染が終息すれば改善される。 ・家庭学習の習慣化にはまだ遠く感じる。自主的な取組が望ましいが、学年毎各教科連携のもと、強制的な宿題への取組から始めるしかない。 ・生徒の理想と成績の向上を両立できるような計画性ある授業をする。 ・3年度は、特に家庭学習に対する意識の向上に焦点を置きたい。	3.35	3.50	・「羽高だより」を町内全世帯への回覧を継続しており良いと思う。 ・この1年間コロナの中高校のことを忘れていた自分がいました。しかし、学校もそして生徒も、しっかりと学校生活を楽しんでいる事が分かりました。こんな状態ではありませんが、一つ一つ色々な事をクリアしていってほしいと思います。こんな中なので、PTA活動もとても大変だとは思いますが、途切れることなく続けていくことを願っています。
		8	知識・技能の習得に加え、教科横断的に思考力や判断力、表現力などの活用学力を育む授業を実践している。	3.11	3.32			3.35	3.50	
		9	自主的・意欲的に学習(特に家庭学習)に取り組む習慣を身に付けさせる工夫を行っている。	3.05	3.32			3.33	3.43	
		10	HPやメール配信、各種通信等で本校の教育活動を外部に積極的に発信している。	3.68	3.63			3.70	3.93	
		11	学校行事の公開や地域の行事等への参加を通して積極的に地域や関係機関、他校種等との連携に取り組んでいる。	3.16	3.32			3.35	3.47	
		12	学校とPTAの連携が十分に図られ、PTA活動も充実した取組になっている。	3.21	3.32			3.35	3.47	
教育活動	生徒指導	13	いじめ防止に向けた校内体制が確立されており、日常から生徒の状況把握及び未然防止・早期発見に努めている。	3.53	3.47		・生徒の日常的観察や理解、その情報共有は細かく行っていくなければならない。(+信頼関係の構築) ・前期の保護者アンケートからの意見を踏まえ、いじめに発展しそうな要素を些細なことでも取り除いていく。 ・生徒指導部のマニュアル作成の整理が必要。例 特別指導、車の免許、生徒会など。 ・柔軟に実施できていると思う。更に高めたい。 14. 16. 今年度はなかなか難しい。 ・生徒理解に努める研修が必要。 14.16 新型コロナウイルス感染が終息すれば改善される。 14. 部活動について、管理職の先生を始めとして非常に理解をいただいて、このコロナの中で活動できた。様々な良い活動ができなかった検討を重ねる。 13. 早期発見には努めているが、地域性を踏まえて難しさを感じる。どの生徒も安心して登校できる環境作りをしたい。 ・感染症に関するいじめの有無という視点に引き続き重きを置く。 ・クリーン作戦を小、中、高合同で開催したい。	3.65	3.87	
		14	学校行事や部活動等を通して生徒が自ら考え仲間と協働する力を育んでいる。	3.42	3.63			3.65	3.87	
		15	各教科の授業や各種教室・講演会等を通して命や健康・安全の大切さを指導している。	3.53	3.47			3.68	3.90	
		16	ボランティア活動等の地域と連携した活動を通して自尊感情や自己有用感の高揚を図っている。	3.21	3.37			3.38	3.83	
	進路指導	17	生徒の自己実現に向け、3年間を見通した組織的・体系的な進路指導(キャリア教育)を行っている。	3.37	3.42		・小論文、共通テスト等校内でのシェアをもっと増やす。Classiを有効に活用していく。 ・進路指導部、学年を中心にしっかりと取り組んでいる。 ・羽幌高校のこれからも考えた進路指導が必要。 ・1・2年生の保護者へ向けた説明会も必要か。 ・講習を行ってください。日程、時程、実施時間を守って行うように。 17. 早い段階から大学進学希望者の意識付けと模試の得点力上げる講習、各種検定取得推進と合格に向けた講習。 ・生徒募集には制限・定期考・模試・後定期の補助の継続と中学生の保護者への周知。国公立大学への合格者を出すこと。各種検定資格取得に向けた講習の推進と取得状況のPR。ボランティア活動の実績。 ・コロナ禍の中でも常々もう少し様々な活動ができたのではないかと感じる。特に大学進学について、保護者も交えて、表現可能な範囲でできるだけ高い進路目標の設定ができるよう、情報を発信していく。 ・進路希望について、早い段階での生徒の発音が引き出し切れにくいところがあり、進路変更もあった。情報提供はされているが、二者面談、三者面談の充実が必要と思われる。	3.65	3.87	
		18	収集・分析した進路情報を進路ガイダンスや保護者説明会などを通して生徒や保護者に適切に提供している。	3.42	3.42			3.63	3.83	